

重要課題の妥当性・客観性の検証のため、有識者との意見交換会を実施

選定した重要課題について、ロイドレジスタージャパン株式会社の取締役・富田秀実様を招いて、そのプロセスや重要課題の妥当性・客観性についてサステナビリティ推進委員会のメンバーと意見交換会を行いました。富田様よりいただいたご意見をご紹介します。



ロイドレジスター
ジャパン株式会社
取締役

富田 秀実様

事業会社でのCSRマネジメントの経験を経て、2013年ロイドレジスター クオリティアシユアランス入社、2016年より現職。ISO26000、ISO20400、GRIスタンダードなどの国際的な規格の策定や政府の委員会に多数参画。

Q.重要課題の選定にSDGsの考え方をを用いる意義は？

SDGsをもとに貴社の重要課題を整理すると、より広い視野でステークホルダーを捉えることができ有効です。貴社はサプライチェーンの川中にあるため、自社やその取引先に意識が集中しがちですが、SDGsの観点からは、直接の取引先であるビルオーナーや建築会社だけでなく、たとえばビルで働く人々のニーズや、現場の協力会社の方々の労働条件なども考えていく必要があります。

また、社会全体の要請であるSDGsは、貴社のビジネスチャンスになる可能性もあります。SDGsを切り口に、社会ニーズへの感度を高めることは、新菱冷熱の将来のビジネスチャンスにもつながるはずです。

ただ、よく理解しておかなければならないのは、SDGsが目指すのは「持続可能な社会の実現」であり、「企業の持続可能性」とは別だという点です。たとえば組織統治（コーポレート・ガバナンス）は、企業活動の基礎、SDGs実現の基礎となる大事なことですが、社会の課題ではないのでSDGsのゴールには入りません。貴社の課題をSDGsだけで整理すれば十分だと思わず、事業活動の基礎も忘れずに、貴社の重要課題を考えてください。

Q.今回選定した重要課題に不足している点は？

原材料調達や労働者の人権問題は、建設業界全体の大きな課題の一つです。とくに人権については、今は課題として顕在化していないかもしれませんが、近い将来、2次・3次の取引関係にある企業の労働管理のあり方が問われる可能性もあります。

また労働安全衛生については、貴社では既に徹底した取り組みが行われているために、新たな課題として認識していないかもしれません。しかし、やっけていて当たり前のことであ

ても、その重要性をしっかりと明記する必要があります。

SDGsで課題を整理していくと、同業種では、似たような重要課題が出てきがちなのは事実ですが、ぜひ「新菱冷熱らしさ」を表現していただきたい。その際には、新菱冷熱の「さわやかな世界をつくる」という経営ビジョンが、大きなヒントとなるでしょう。エネルギー面でも、快適性の面でも、新菱冷熱だからこそ世に提供できる価値があるものと思います。

Q.社員一人ひとりが、「自分ごと」と捉えるには？

重要課題を雲の上の理想論で終わらせないためには、やはり「新菱冷熱らしさ」を貫くこと、そして、現場を起点とすることが大切です。その意味においても、重要課題の特定に取り組むサステナビリティ推進委員会が、社内の各部署から集められたメンバーで構成され、日常業務と兼務する体制になっていることは、意思決定プロセスとして理想的です。組織横断のチームであることにより、社内の意見を集約しやすいことは、現場の理解や一体感を得るうえで、大きなカギとなります。

重要課題は時とともに変わっていくものです。大切なのは、課題をいかに特定し、どう次に結び付けていくか、そのプロセスそのものです。新菱冷熱らしい重要課題を掲げ、全社員を巻き込んで展開していくことを期待しています。



意見交換会の様子(中央は進行役の、学会「企業と社会フォーラム」プログラム委員 今津秀紀様)

今後の取り組み

今後は富田様のご意見を踏まえ、さらなる精査を行い、重要課題を決定します。決定した内容をもとに、「STEP3 目標を設定する」「STEP4 経営へ統合する」を目的にKPI(重要業績評価指標)の設定とそのKPIの経営層からの承認プロセスに取り組んでいきます。

そのプロセスを経て、次年度のレポートでは、決定した重要課題と設定したKPIの表明、具体的な活動報告を「STEP5 報告とコミュニケーションを行う」の一環として行っていく予定です。